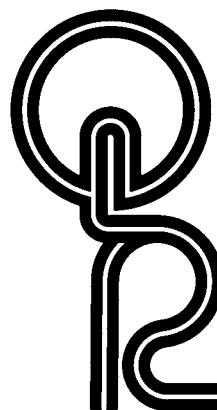


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 17 No.1, 2010



2009年度古地震・ネオテクトニクス研究委員会野外集会において訪れた●木立地点（岩手県一関市）。この地点では2008年岩手・宮城内陸地震に伴って南東側隆起の地表地震断層が現れた。発震機構や地殻変動から推定される地下の断層運動は北西側隆起の逆断層の活動であることから、この地点に現れた地表地震断層は副次的なものと思われる。写真右側の人物が指している付近に地表地震断層が現れた。参加者背後の杉の木の傾きは、断層運動により南東側（写真右側）が隆起したために生じた。（撮影：吾妻 崇）
●（ほの）＝木偏に爪

Vol. 17 No. 1

February 1, 2010

副会長就任のことば・・・・・・・・・・2	古地震・ネオテクトニクス研究委員会野外集会参加報告・・・・・・・・・・9
2010年大会案内（第1報）・・・・・・・・2	第1回AsQUA参加報告・・・・・・・・10
地球惑星科学連合大会案内・・・・・・・・2	研究委員会シンポジウム報告・・11
事務局移転のお知らせ・・・・・・・・5	幹事会議事録・・・・・・・・・・12
デジタルブック購入案内・・・・・・・・6	会員消息・・・・・・・・・・12
学会賞・学術賞推薦の募集・・・・8	
論文賞・奨励賞推薦の募集・・・・8	

◆副会長をお引き受けして

竹村恵二

思いがけず、今回の副会長補充選挙で、副会長に選出いただきました。ふと考えると第四紀学会にはもう35年近くお世話になっています。その間、いくつかの関西での大会等で運営やシンポジウムのお世話をさせていただきました。また、編集幹事も2期務めさせていただきました、その間多くの編集担当委員にお世話になりながら、5年分の特集号を編集したことも貴重な経験でした。

2009年6月には、第四紀の定義も変更され、より長い時代をカバーすることになりましたが、現代の人類が生きている地球について多くの情報を持ち、将来への課題の克服のために重要な役割を持つのが学際・融合型の第四紀学だと考えています。現代地球の課題も山積し、学会・学界を取り巻く情勢の変化も激しい時代の中で、第四紀学や第四紀学会の役割は重要な位置を占めています。

人間の生きたまは生きていく時代を対象にした第四紀地球学の大事さや醍醐味を大事にし、将来に向けての提言や可能性を探りながら、第四紀学会の発展に少しでも貢献できればと考えています。よろしくお願ひします。



◆日本第四紀学会 2010年大会案内 (第1報)

日本第四紀学会 2010年大会は、下記の日程で実施される予定です。詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2010年8月20日(金)～8月22日(日)
開催場所：東京学芸大学

日程：

- 8月20日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会
- 8月21日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会
- 8月22日(日) 午前：シンポジウム(「自然史研究の推進」を中心とするテーマを検討中)、
午後：講演会(学会賞・学術賞受賞者)
- 8月23日(月) 巡検「高尾山の自然史—地質・地形と水と森のつながりを読む—」(日帰り)

シンポジウムでは「自然史研究の推進」を中心とするテーマで検討中です。巡検は八王子市の高尾山を予定しています(定員30名程度)。また、本年度より学会賞・学術賞受賞者の講演を大会時にも行う予定です。

◆日本地球惑星科学連合 2010年大会のお知らせ

日本地球惑星科学連合 2010年大会が下記のとおり開催されます。今大会からセッションの枠組みが大きく変わります。従来のレギュラーセッションとスペシャルセッションの区別はなくなります。日本第四紀学会は、従来の「第四紀」セッションを引継ぐ新しいセッションとして『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』を主催します。また『活断層と古地震』セッションを従来通り主導します。これら2つのセッションとその関連セッションに会員多数の参加と発表を期待します。以下は地球惑星科学連合の大会ホームページ(<http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>)より編集したものです。なお、日本地球惑星科学連合は一般社団法人化され、個人会員制になりましたが、会員であっても非会員でも大会に参加できます。ただし参加費が異なりますのでご注意ください。会員登録は日本地球惑星科学連合のホームページ(<http://www.jpogu.org/>)をご覧ください。

§ 1 2010 年大会の概要

●会期:2010年5月23日(日)～28日(金)
(6日間)

●会場:幕張メッセ国際会議場
〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1

●各種受付開始日・締切日

■予稿集原稿投稿

2010/1/12(火)より受付開始

～早期締切 1/29(金) 17:00

～最終締切 2/5(金) 12:00

※投稿規定が変更されています。詳細は大会予稿集原稿投稿案内 (http://www.jpogu.org/meeting/regist03_abstract.html) をご覧ください。

■早期参加登録

2010/1/19(火)～4/9(金) 23:59

●各種料金:

予稿集原稿投稿

早期:1,500円/1件、最終:3,000円/1件
図の掲載(WEBアップロード):500円/1件
(希望者のみ)

参加費(全日程料金/24時間料金)

事前参加登録:

一般会員 11,000円/5,000円(同大会会員
18,000円/12,000円)

小中高教員 会員 4,500円/1,000円(同大会
会員 11,500円/8,000円)

大学院生・研究生 会員 5,500円/2,000円(同
大会会員 11,500円/8,000円)

当日参加登録:

一般会員 13,000円/6,000円(同大会会員・
非会員 20,000円/13,000円)

小中高教員 会員 6,000円/3,000円(同大
会会員・非会員 13,000円/10,000円)

大学院生・研究生 会員 7,000円/4,000円(同
大会会員・非会員 13,000円/10,000円)

連合個人会員でなくても大会に参加できますが、会員と大会会員・非会員とでは参加登録料が異なります。各料金の支払いはオンラインシステムによるクレジットカードでの支払いとなります。詳細は大会ホームページをご覧ください。

§ 2 開催セッションのご案内

2010年度連合大会では、セッション構成が大きく変わります。セッションはパブリック(O)・ユニオン(U)・学術の大きく3つに分かれます。さらに、学術セッション(サイエンスセッション)は、宇宙惑星科学(P)、大気海洋・環境科学(A)、地球人間圏科学(H)、固体地球科学(S)、地球生命科学(B)、地球惑星総合(G)、学際・広領域セッション(M:旧ジョイントセッション等)の7つのセッション群に分かれます。ご投稿・ご参加の際

には、興味のあるセッションを上記の計9つのセッション群の中から検討してください。

第四紀学セッション(H-QR)では『ヒト-環境系の時系列ダイナミクス』と『沖積層研究の新展開』の2つのセッションが開催されます。また、『活断層と古地震』『変わる年代のものさし-日本における第四紀・第三紀を考える-』『人間環境と災害リスク』『活断層と地震災害軽減』『古気候・古海洋変動』『海と陸の気候-過去から現代までの変動解明へのアプローチ』『氷床・氷河コアと古環境変動』『低緯度域の気候変動と間接指標の開発』などホットな話題を含む第四紀学関連セッションが多数開催されます。ふるってご参加ください。

●開催セッション一覧

下線を付したものは国際セッションです。地球惑星科学における日本の活発な活動を世界の方々に知っていただくため、海外の研究者を招き、講演を全て英語で行うセッションを開催します。セッション名の末尾のPは発表形式がポスターのみであることを示します。他は口頭とポスターの両方です。

■ユニオン(U)

・地球惑星科学の進むべき道:大型研究のありかた
・金星に旅だった探査機"あかつき"を通して創られる惑星気象学
・極域科学の新時代-南極大型大気レーダーを軸として-
・地殻流体と沈み込み帯のダイナミクス

■パブリック(O)

O-ED(学校教育関連)

・高校生によるポスター発表P

O-ES(一般向け地球惑星科学)

・ジオパーク
・地球/惑星科学トップセミナー

■宇宙惑星科学(P)

P-PS(惑星科学)

・新しい「火星」観へ
・宇宙/惑星における固体物質の形成と進化
・新しい月の科学
・惑星科学
・太陽系小天体の科学
・初期太陽系における物質循環
・将来の月惑星探査に向けた構想と戦略
・地球と系外地球の形成と進化
・隕石解剖学
・巨大惑星
・衛星
・系外惑星

P-EM(太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境)

・宇宙天気
・磁気圏-電離圏結合
・太陽圏
・惑星間空間
・磁気圏構造とダイナミクス
・電離圏
・熱圏
・宇宙プラズマ理論
・シミュレーション
・内部磁気圏高エネルギー粒子ダイナミクス
・3学会合同プラズマ

宇宙物理 (粒子加速/加熱/相対論) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (MHD 現象/構造形成) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (観測/計測/新技術) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (乱流/輸送/非線形現象) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (プラズマ中性粒子相互作用) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (理論/シミュレーション技法) ・3 学会合同プラズマ宇宙物理 (宇宙天気/太陽風/磁気圏構造)

・CAWSES-II、ISWI 国際シンポジウム

P-CG (宇宙惑星科学複合領域・一般)

・惑星大気圏 ・電磁圏

■大気海洋・環境科学 (A)

A-AS (大気科学・気象学・大気環境)

・大気化学 ・最新の気象学: サブテーマ: 北極圏の気候変動 ・成層圏過程とその気候への影響 ・地球科学における降水プロダクトの作成と応用 ・アジア域の大気褐色雲 (Atmospheric Brown Cloud-Asia) ・赤道大気圏のエネルギー ・物質ファウンテン ・エアロノミー ・大気電磁気学 ・大気電気学 (EM) ・大気圏 ・熱圏下部 ・Thunderstorms and lightning impacts on the atmosphere

A-HW (水文・陸水・地下水学・水環境)

・同位体水文学 2010 ・都市域の地下水 ・環境地質 ・水循環 ・水環境 ・流域の水文地質と物質輸送 ・流域分類と人為攪乱影響の閾値抽出に基づく流出予測

A-CC (雪氷学・寒冷環境)

・雪氷学 ・氷床 ・氷河コアと古環境変動

・雪氷圏と気候

A-PE (古環境・長期気候変動)

・古気候 ・古海洋変動

A-GE (地質環境・土壌環境)

・地質媒体における物質移動、物質循環と環境評価

A-CG (大気海洋・環境科学複合領域・一般)

・北極域の科学 ・海と陸の気候—過去から現代までの変動解明へのアプローチ ・陸域/海洋相互作用—大陸河川と海洋の相互影響と理解 ・陸域/海洋相互作用—物質循環と生態系との関係—

■地球人間圏科学 (H)

H-GG (地理学)

・Global Land Project と地球惑星科学 ・モンスーンアジアのフードと風土

H-GM (地形学)

・地形

H-QR (第四紀学)

・ヒト—環境系の時系列ダイナミクス ・沖積層研究の新展開

H-SC (社会地球科学・社会都市システム)

・人間環境と災害リスク ・都市化と地球環境変化 ・商品化する日本の農村空間 ・CO₂削減のための Green Geo-Technology の探求 ・ダム堆積物問題 (堆砂と排砂) に対する地球科学的アプローチ

H-DS (防災地球科学)

・湿潤変動帯の地質災害 ・ヒマラヤにおける氷河湖拡大と決壊洪水 ・緊急地震速報: 更なる迅速化と精度の向上 ・活断層と地震災害軽減

H-TT (計測技術・研究手法)

・環境リモートセンシング—アジアの発展と環境変化— ・GIS ・地理情報システム

■固体地球科学 (S)

S-GD (測地学)

・測地学一般・重力・ジオイド

S-SS (地震学)

・地震発生の物理 ・震源過程 ・地震予知 ・地震活動 ・地殻変動 ・地殻構造 ・強震動/地震災害 ・活断層と古地震 ・地震波伝播: 理論と応用 ・「ちきゅう」が明らかにする南海トラフ地震発生帯のメカニズム ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程 ・内陸地震への包括的アプローチ ・Global Collaborative Earthquake Predictability Research ・関東アスペリティ ・プロジェクト: 掘削とモニタリングに向けて ・首都直下地震防災/減災特別プロジェクト ・What have we learned from the Wenchuan earthquake? ・地震学的観測結果の解釈: 沈み込み帯を例として ・連動型巨大地震 ・固体地球電磁気学 (EM) ・電気伝導度 ・地殻活動電磁気学 ・地磁気 ・古地磁気 ・Imaging of continent and ocean using EM induction studies

S-IT (地球内部科学・地球惑星テクトニクス)

・テクトニクス ・地球深部ダイナミクス: プレート/マントル/核の相互作用 ・地球構成物質のレオロジーと物質移動 ・海洋リソスフェア: 誕生、成長、そして沈み込み/衝上 ・Water in subduction zones, the large mantle wedge and deeper ・大規模なマントルダイナミクスモデルと観測データによる検証 ・溶融地球: 核から火山まで ・マントル深部の鉱物物性とマントルダイナミクス ・大陸移動の原因について

S-GL (地質学)

・地球年代学 ・年代層序学 ・地域地質と構造発達史

S-RD (資源・鉱床・資源探査)

・資源地質学の新展開: レアメタル/レアアース資源を中心として

S-MP (岩石学・鉱物学)

・変形岩 ・変成岩とテクトニクス ・鉱物の物理化学 ・水素系物質と中性子の地球惑星科学

S-VC (火山学)

・火山の熱水系 ・火山 ・火成活動とその長期予測 ・活動的火山

S-GC (固体地球化学)

・固体地球化学 ・惑星化学

S-TT (計測技術・研究手法)

・物理探査のフロンティア ・合成開口レーダー ・地震観測／処理システム ・空中からの地球計測とモニタリング ・地震学と構造地質学における応力逆解析手法とその活用

・ Advances in Gravity and Magnetic methods in Geosciences

S-CG (固体地球科学複合領域・一般)

・兵庫県南部地震の教訓とその後 15 年の研究：進展と展望 ・岩石／鉱物／資源 ・断層帯の化学 ・放射性廃棄物処分と地球科学 ・火山活動や沈み込み過程に伴う低周波振動現象

・海洋底地球科学 ・プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解 ・ひずみ集中帯の構造とアクティブテクトニクス ・島弧進化と大陸地殻 ・流体包有物

■地球生命科学 (B)

B-AO (宇宙生物学・生命起源)

・ アストロバイオロジー：宇宙における生命起源／進化／分布と未来

B-BG (地球生命科学・地圏生物圏相互作用)

・生命－水－鉱物－大気相互作用 ・サンゴ礁：生命／地球／人の接点

B-PT (古生物学・古生態学)

・地球生命史 ・化学合成生態系の進化をめぐって ・地球化学手法による顕生代のグローバル環境変動解析 ・低緯度域の気候変動と間接指標の開発

B-PO (古海洋学)

・生物鉱化作用と地球化学からみた古海洋代

替指標 ・遠洋域の進化

■地球惑星科学総合 (G)

G-EJ (小・中学校教育)

・小中学校の地球惑星科学教育

G-SU (高校・大学教育)

・高校大学の地球惑星科学教育

G-SC (社会教育・報道・サイエンスコミュニケーション)

・地球惑星科学のアウトリーチ

G-HE 地球惑星科学史

・地球科学史、地球科学の哲学

■学際・広領域 (M)

M-IS (ジョイント)

・大気電気学 ・堆積物／堆積岩から読みとる地球表層環境情報 ・津波 ・地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ

・ガスハイドレートとメタン湧水 ・陸域の生物地球化学 ・地球掘削科学 ・地震／火山等の地殻活動に伴う地圏／大気圏／電離圏電磁現象

・高解像度対比に基づく地球史イベント研究の新展開 ・ Deep Carbon Cycle ・変わる年代のものさしー日本における第四紀／第三紀を考えるー ・結晶成長における界面／ナノ現象 ・宇宙気候学の進展 ・2009 年 7 月 22 日皆既日食における大気圏 ・電離圏観測

M-GI (地球科学一般・情報地球科学)

・情報地球惑星科学 ・地球環境観測データの行方および未来 ・逆問題解析の新展開～データからダイナミクスに迫る ・地球情報の標準／管理と 3 次元モデル

M-AG (応用地球科学)

・地球温暖化防止と地学 (CO₂ 固定、CCS、地球工学等) ・ アジアにおける自然災害の学際的研究 ・宇宙開発／地球観測 (SD) ・ 小型科学衛星による地球惑星科学

M-TT (計測技術・研究手法)

・地球惑星科学における地図／空間表現 P

◆日本第四紀学会事務局移転のお知らせ

業務委託先である株式会社春恒社の移転に伴い、2010 年 2 月 1 日より、学会事務局の所在地が下記に変更となります。

【新所在地】(2010 年 2 月 1 日より)

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号

新宿ラムダックスビル 10 階 株式会社春恒社 学会事業部内 日本第四紀学会

※メール、電話番号、FAX 番号等は変更ありません。

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com

電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

◆日本第四紀学会 50周年記念電子出版「デジタルブック 最新第四紀学」の購入申し込みを開始します！（再掲）

－会員の皆さんは割引期間にお申し込みください－

日本第四紀学会は 2006 年 4 月に学会創立 50 周年を迎えましたが、その記念事業の一つとして電子出版を企画し、電子出版編集委員会のもとで編集作業を進めてまいりました。このたび編集作業は完了し、「デジタルブック最新第四紀学」として出版いたすことになりました。

第四紀は地球が誕生してからの長い歴史の中で、過去と現在、さらに現在と未来を結ぶ重要な時代です。地球温暖化やさまざまな地球環境問題が直ぐに対応すべき現実の問題となっている中で、総合的な視点でこの時代の環境変動の解明をはかる第四紀学の必要性は国際的にも国内的にも高まっています。同時にその進歩も早く、知識は日進月歩で更新されています。

この出版物のねらいは、日本第四紀学会会員が中心になってきた幅広い研究活動の成果を、最新データを含めて一般に広く普及し、特に将来を担う人々に伝えること、あわせて第四紀学と日本第四紀学会の歩みを紹介し、この分野と学会が果たしている役割についての理解を広めることです。多くの会員の皆さんが入手され、周囲の方々に普及されることを期待しています。

第四紀学の範囲はきわめて広く多岐にわたるため、その成果を紹介するには膨大なページが必要です。また、多数のカラーの図や写真を使用するため、CD-ROM で出版する形態をとりました。111 名の著者により執筆された第四紀学に関わるほとんどの分野の研究成果が 97 編の概説と項目（論文）として 1 枚の CD-ROM に収められ、概要を収めた冊子とセットになっています（大項目は下記参照）。

会員割引期間は 2009 年 12 月より半年間です。第四紀通信本号あるいはホームページの申込書により早めにお申し込みください [申込方法、申し込み先は申込書を参照下さい]。会員割引価格は 2000 円 + 送料 [複数購入も可能です]。

なお、会員割引期間終了後は一般販売に移行する予定です [定価は 3800 円、消費税込みで約 4000 円の見込み]。

<大項目一覧>

- 地球史の現代：第四紀の研究
- 第四紀の地球環境とその変動
- 将来予測に向けた第四紀の研究
- ヒューマンインパクト
- 地球システムを駆動する寒冷圏の変動
- 第四紀の時を刻む層序・編年
- 日本列島の地形と地質
- 第四紀地殻変動と火山活動
- 人類のあゆみ
- 第四紀の生物群
- 第四紀研究を推進する最先端の年代測定法

日本第四紀学会 事務局 行き

FAX:03-5291-2176

『デジタルブック最新第四紀学』 申込書

(ふりがな) 会員名			ご入用部数:	冊
お届け先	〒			
電話番号		FAX番号		
領収書	要・不要		領収書宛名:	

明細書貼付欄

※料金計算方法について
【注文数が1〜4冊の場合】

2,100円 × 注文冊数
(メール便にて発送します)

【注文数が5冊以上の場合】
(2,000円 × 注文冊数) + 740円(送料)
(宅配便にて発送します)

【ご注文方法】

1. 本の代金を下記銀行口座に入金して下さい。(恐れいりますが入金手数料は各自で御負担下さい)
(入金口座 みずほ銀行 早稲田支店[普通預金口座:2093935])
2. お支払い頂いた入金明細書を注文書に添付し、事務局へFAXして下さい。
(入金明細書を添付した注文書をスキャンして、メールに添付して事務局にお送り頂くことも可能です)
3. ご指定頂いたお届け先に本をお送りします。

【お問い合わせ】 日本第四紀学会 事務局 (2月1日より事務局住所が変更となりました！)

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社 春恒社 学会事業部内

TEL:03-5291-6231 E-mail:daiyonki@shunkosha.com

◆「日本第四紀学会賞」と「日本第四紀学会学術賞」の候補者推薦の募集と推薦文のメールでの受付について

2010年度の「日本第四紀学会賞」（以下「学会賞」）と「日本第四紀学会学術賞」（以下「学術賞」）の受賞候補者を募集しています。推薦文は郵送だけではなく、メール添付でも受け付けます。両賞は学会賞受賞候補者選考委員会による選考を経て、2010年6月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2010年総会で表彰される予定です。

「学会賞」は、第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動及び学会活動に貢献した正会員に授与される学会における最高の賞です。長年にわたる研究業績や功労でも、最近あるいは過去の短期間におけるインパクトのある業績に対してでもかまいません。2009年度は小野 昭・町田 洋両会員に、2008年度は大場忠道・松島義章両会員に授与されました。

「学術賞」は、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員個人またはグループ代表者に授与されます。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象で、「第四紀研究」や日本第四紀学会の出版物に限定されません。長年にわたる地道な研究成果でも、短期間に集中して実施された研究成果でもかまいません。2009年度は小疇 尚・斎藤文紀両会員に、2008年度は五十嵐八枝子・横山祐典両会員に授与されました。

つきましては、第四紀通信前号（第16巻6号）に掲載された「日本第四紀学会学会賞規定」と「日本第四紀学会学会賞と学術賞選考に関する内規」をご参照の上、それぞれ候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「学会賞」の場合には候補者名及び具体的な業績や活動内容を示した受賞件名と推薦理由（600～800字程度）を、「学術賞」の場合には候補者名及び受賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名と推薦理由（600～800字程度）を記入して下さい。
なお、前号の第四紀通信に掲載した書類の提出先は、学会事務局の移転のため、2010年2月1日より下記住所に変更となりました。
2. 推薦書類の提出先（新住所ですのでご注意ください）
郵送の場合：
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
日本第四紀学会 学会賞受賞候補者選考委員会 宛
電子メールの場合：daiyonki(at)shunkosha.com
電子メールの件名には「日本第四紀学会 学会賞受賞候補者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付お願いします。
3. 推薦書類の受理期限 2010年3月31日（必着）

◆「日本第四紀学会論文賞」と「日本第四紀学会奨励賞」候補論文推薦の募集と推薦文のメールでの受付について

2010年度の「論文賞」と「奨励賞」の推薦を募集しております。推薦文は郵送だけではなくメール添付でも受付いたします。これらの賞は、過去2年間（第47巻および第48巻）の「第四紀研究」に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文が対象となります。会員の皆様から自薦・他薦によって候補論文と候補者をご推薦いただき、論文賞受賞候補選考委員会による選考を経て、2010年6月頃に開催される評議員会で受賞論文と受賞者が決定され、2010年総会で表彰される予定です。

「論文賞」は、会員を含む論文著者全員に授与されます。対象は、掲載された全ての論文（短報を含む）です。2009年度は佐瀬 隆・町田 洋・細野 衛各会員に、2008年度は澤井祐紀会員（奨励賞と同時受賞）に授与されました。

「奨励賞」は、会員である論文筆頭著者に授与されます。年齢は2010年4月1日現在で35歳以下の方を対象とします。副賞として5万円の奨学金も授与されます。2009年度は

立石 良・張 穎奇両会員に、2008 年度は副田宜男・植村 立両会員に授与されました。つきましては、第四紀通信前号(第 16 巻 6 号)に掲載された「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会論文賞と奨励賞選考に関する内規」をご参照の上、「論文賞」の候補論文と「奨励賞」の候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 選考対象:「第四紀研究」第 47 巻(2008 年)および第 48 巻(2009 年)に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文。「論文賞」の場合には、著者に会員が含まれることが必要です。「奨励賞」の場合は、筆頭著者が会員であること。
2. 推薦書類: 推薦書類には、推薦者名(自薦を含む)、賞の名称、「論文賞」の場合には候補論文名(著者名と巻号頁を明記)及び推薦理由を、「奨励賞」の場合は候補者名と推薦論文名(巻号頁を明記)及び推薦理由を記入して下さい。推薦文は 500～800 字程度、推薦論文は複数でもかまいません。なお、前号の第四紀通信に掲載した書類の提出先は、学会事務局の移転のため、2010 年 2 月 1 日より下記住所に変更となりました。
3. 推薦書類の提出先
郵送の場合:
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会 宛
電子メールの場合: daiyonki(at)shunkosha.com
電子メールの件名には「日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付お願いします。
4. 推薦書類の受理期限 2010 年 3 月 31 日(必着)

◆ 2009 年度古地震・ネオテクトニクス研究委員会野外集会参加報告

佐々木俊法(電力中央研究所)

2009 年度古地震・ネオテクトニクス研究委員会野外集会が吾妻 崇会員(産業技術総合研究所活断層・地震研究センター)案内のもと、11 月 28 日～29 日の 2 日間で開催された。場所は奥羽脊梁山脈の東西両側で過去に M7 クラスの地震があった地域である、平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震震源域および 1896 年(明治 29 年)陸羽地震の千屋断層を含む横手盆地東縁断層帯である。参加者は日本第四紀学会会員を主体に 9 名、内訳は大学関係 2 名、研究機関 2 名、高校教諭 1 名、大学院生 1 名、官庁関係 2 名、案内者 1 名であった。

初日は一ノ関駅に集合し、岩手・宮城内陸地震震源域の被災地、地表変状出現地点を観察した。駒の湯温泉地点は、地震時に東栗駒山の東斜面で発生した崩壊をきっかけとして発生した土石流によって被災した旅館跡地である。現在でも多量の土石流堆積物が谷を埋めた様子が観察され、その規模の大きさがうかがわれた。●木立地点は地震直後、明瞭に観察された水田の変状は整地済みであったが、畔の段差や杉の傾きで痕跡を確認できた。同地点でこれまでおこなわれたトレンチ調査結果を参照しながら、地形形成と想定断層モデルについての議論が活発におこなわれた。岡

山地点では田力正好会員(地震予知総合研究振興会)による磐井川沿いに発達する河成段丘についての解説があった。餅転地点では、地震時に被害を受けた餅転橋から地変のあった水田を遠望したところ、現在は整地されているものの水田表面の乾湿(低下側が湿っていた)で地変のトレースを追うことができた。

2 日目は横手盆地東縁断層帯が形成する地形を中心に観察した。中山丘陵西縁地点では新第三系が傾斜している露頭の前で、テクトニックバルジに関する解説があった。中山丘



参加者集合写真 美郷町郷土資料館にて(吾妻 崇氏提供)

陵西縁地点は空中写真判読で確認されているバルジのうち、最も盆地中央側（前面）のバルジで、周辺には明瞭な撓曲崖やバルジのステップ構造が確認されているとの解説は非常に興味深かった。釜ノ川地点では産業技術総合研究所活断層・地震研究センターによっておこなわれているトレンチ掘削現場を見学した。残念ながらトレンチ壁面で断層を観察することができず、これまで同様な調査をおこなってきた者としては、扇状地での調査における土地利用状況に由来する難易度の高さを改めて感じた。稲庭地点は釜ノ川地点と同様に扇状地が分布し、扇状地の傾斜と異なる明らかに急な低崖が連続する様子が観察された。ここから千屋断層に移動し、花岡地点では事前談話会で今泉俊文会員（東北大学）によって解説のあった露頭を観察し、表層付近の土壌層が撓んでいる様子がみられた。小森地点は1982年におこなわれたトレンチ調査跡地であり、調査グループの一員であった太

田陽子名誉会員（横浜国大名誉教授）によって、当時のエピソードを交えて解説していただいた。一丈木地点は雄物川の支流沿いに分布する断層露頭を観察できるはずであったが、案内板は現存するものの、露頭は崖錐に覆われ観察することができなかった。最後に美郷町郷土資料館を訪れ、縄文期以降、明治～昭和を中心とした時代の農機具やわら細工などの生活道具が数多く展示されており、各時代の生活様式をうかがい知ることができた。また、千屋断層についての展示スペースも広くはないが設けられていた。

2日間という短い期間であったが、逆に短時間で奥羽山脈の両側で発生した同規模の地震震源域を見て回ることで、変動地形の明瞭さの違いが印象として深く残った。

案内資料の作成や2日間にわたり案内者かつ運転者を務めていただいた吾妻 崇会員には参加者を代表して厚く御礼申し上げる。

●（ほの）＝木偏に爪

◆第1回アジア第四紀学会議 (AsQUA) 報告

齋藤文紀（産業技術総合研究所）

2009年10月19日から23日に北京の西苑飯店で、北京原人第1頭蓋骨発見80周年記念の国際古人類学学術シンポジウム、アジア旧石器協会 (Asian Paleolithic Association: APA) の第2回会合、第1回アジア第四紀学会議 (First Asian Conference on Quaternary Research: AsQUA) の合同会議が開催された。主コンビーナーは、中国科学院古脊椎動物与古人類研究所の高星 (GAO Xing) 副所長。本合同会議には、20ヶ国を超える国々から230名を超える参加者があった。10月20～22日の3日間の科学セッションは、初日は合同のプレナリーセッションで、最初に中国科学院古脊椎動物与古人類研究所の80周年の記念セレモニーが開催され、10件の基調講演が行われた。2～3日目は、古人類関係、旧石器関係、アジア第四紀関係の3つのセッションに分かれて発表が行われた。

アジア第四紀学会議では、3日目の昼に事務会合が開催された。AsQUAの前代表のLIU Jiaqi教授、現代表のDING Zhongli所長が欠席のため、中国側を代表してXIAO Juleさんが座長を務めた。参加者は、日本からは、熊井久雄、齋藤文紀、韓国は、Yong Ahn PARK、Sangheon YI、Boo Keun KHIM、台湾からはCHEN Min-Te、ロシアからはMargarita ERBAJEVA、中国からは他に中国第四紀学会からZHOU Liping、ZHU Zhaoyu、JIN Changzhuの3名（敬称略）。会議の内容と開催方法に



周口店遺址博物館での第1頭蓋骨発見80周年記念式典。壇上の中央が高星副所長。

関して討議した結果、以下のように決まった。AsQUAは定期的に行うことが望ましく、INQUAの間の会議ということ considering 4年毎に開催する。開催の仕方やテーマの設定は、次回を引き受けたところが基本的に決める。台湾と中国の関係もあり、広く参加を呼びかける観点から規約やメンバーシップを定めず、会議中心に運営してゆく。

次回の会合については、協議の結果、ロシアのバイカル湖の近くのウラン・ウデ (Ulan-Ude) で、Margarita ERBAJEVA (Geological Institute Siberian Branch of RAS) さんを中心に2013年の開催を検討することになった。開催の可能性に関して、ERBAJEVAさんが持ち帰り議論した結果、開催は可能だが、予算上

の問題があり、PAGES、INQUA 等からのシンポジウム開催の援助が必要との連絡があった(2010.1)。湖沼堆積物、古環境、第四系層序などのテーマが考えられるかと思えます。まだ会議は先ですが、シンポジウムの共催や共同コンビナー等、日本からのご協力をお願い致します。

注：ロシアでの開催が決まると、アジア第四紀学会議の座長は、現行の DING Zhongli さんから Margarita ERBAJEVA さんに代わることとなります。(つくばの会合では、LIU Jiaqi さんが座長に選ばれましたが、中国内での 2008 年の第四紀研究委員会の人事により DING Zhongli (委員長) に代わっています。DING さんは、現在中国科学院の副院長)

◆「生物多様性からみた地球温暖化」参加報告

井上 弦(九州大学中央分析センター)

2009年12月19日に日本第四紀学会研究委員会「地球温暖化問題を検討する委員会」(研究代表者：陶野郁雄氏)と文部科学省平成21年度グローバルCOEプログラム「自然共生社会を拓くアジア保全生態学」(拠点リーダー：矢原徹一氏)の共同主催によるシンポジウム「生物多様性からみた地球温暖化」が小池裕子氏(九州大)と磯望氏(西南学院大)が世話人となって、九州大学西新プラザ(福岡市早良区)で開催された。参加者は、本会会員などの研究者を始め、行政関係者、コンサルタント関係者、学生、一般参加など100名を超え、近年の地球温暖化問題への関心の高さが伺えた。プログラムは2部構成で、第1部が「生物多様性と温暖化」と題し現在から未来への温暖化の影響について、第2部が「気候変動と現代の温暖化」と題し過去から現在への温暖化の影響についての内容であった。

第1部は、まず矢原徹一氏(九州大)から「地球温暖化と生態系・生物多様性の変化」として趣旨説明が行われた。地球温暖化と生物の保全を関連づけた国際的取組みとして、CBD(Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約)とGEOS(Global Earth Observation System of Systems: 全地球観測システム)の紹介などがあった。次に講演1では、樋口

広芳氏(東京大)が「温暖化が動植物の生物季節や個体数に及ぼす影響」として、長期間にわたるモニタリングとその結果を利用したモデル/シミュレーション研究が、今後、温暖化に伴う生物多様性の動態予測とそれに対する適切な対策の検討に必要不可欠であることなどが述べられた。講演2では、渡慶次睦範氏(九州大)が「Coral reef ecosystem under global warming: ecological perspectives」として、地球温暖化に伴う直接的、間接的なサンゴの大量死についての研究事例の紹介があった。そして、第1部のコメントとして、小池裕子氏(九州大)から「酸素同位体からみた貝類への温暖化の影響」として、関東と博多湾におけるチョウセンハマグリを解析した古海水温変動の事例研究の紹介があった。

第2部は、遠藤邦彦氏(日本大;本会会長)から「過去から学ぶ現代の温暖化の原因」として趣旨説明が行われた。過去において、噴火に基づくエアロゾルの成層圏への注入が、地表に到達する日射量を遮って気温低下を引き起こし、温暖化のトレンドを押し下げた可能性についての興味深い研究が紹介され、過去から学ぶことの重要性が述べられた。次に講演1では、狩野彰宏氏(九州大)が「鍾乳石に記録された現代の温暖化の要因」として、日本産の石筍についてU/Th年代、酸素・炭素安定同位体などを調べ、古気候解析から得た新知見などの紹介があった。講演2では、下山正一氏(九州大)が「8000年前以前の居住環境の変化—東名遺跡と浜の町遺跡からみえるもの—」として、北部九州で約8000年前に海岸で生活し、その後の海面急上昇で生活地の放棄を余儀なくされた2つの遺跡の事例研究の紹介があった。そして、第2部のコメントとして、奥野充氏(福岡大)から「放射性炭素年代と環境変動」として、 ^{14}C ウイグルマッチングと海洋リザーバー効果の解説と、陸上と海底の堆積物の同時断面を提供するテフラ年代に関する研究についての紹介があった。



総合討論の様子(撮影:九州大総務部広報係 水江朱里氏)

総合討論は、矢原・遠藤・陶野の各氏の司会で、来場者の質問に答える形で進められた。生物多様性から学ぶべきことが多いということ共に、第四紀に関連する研究が、地球温暖化問題へ具体的にどのようにフィードバックできるのかとの見解が特に印象的であった。またシンポジウム後の会場ロビーでの交流会も、総合討論を含め、一般の方々からの熱心な質問や議論が多くあり、様々な分野の人々が話し合う良い機会を提供してくれた。

◆日本第四紀学会 2009年度第3回幹事会議事録

日時：2009年12月5日(土) 14:00～18:45

場所：早稲田大学教育学部(16号館) 10階
1029 社会科会議室

出席：遠藤、小野、百原、池原、久保、須貝、植木、吾妻

オブザーバー：町田、奥村

議事：

(1) 役員補充選挙の結果、副会長に竹村恵二会員、幹事に渡邊真紀子会員が選出されたことが報告された。

(2) 前回会合以降の幹事会 ML 審議により、1) 2010年度連合大会のセッション内容、2) 仕分け作業結果に対する反対意思表示に関する連合への協力対応、が決められたことについて報告された。

(3) 2010年大会の準備状況について会場となる東京学芸大学との連絡状況について報告され、大会案内の第一報を次号の「第四紀通信」に掲載することとした。ジオパークに関連したテーマになることが想定されていることから、植木幹事が大会実行委員会に加わるよう調整することとした。

(4) 2010年1月と6月に開催するシンポジウムと授賞記念講演について準備状況が報告された。

(5) 第2回評議員会の審議事項として、法務規定の一部改訂を中心に検討した。

(6) 学会としてのジオパーク活動への対応について検討した。

(7) 会長推薦幹事の選考方法について検討した。

(8) 編集委員会に大串健一会員が加わる事が承認された。

(9) 2010年5月に開催されるテフラ国際会議について、条件付きで海外講演者招聘旅費を学会から援助することが承認された。

(10) 2009年度功労賞の選考方法について検討した。

(11) 講習会のテーマの決め方等について検討した。

(12) 日本学術振興会審査委員候補者データベースへの情報提供の方法について検討し、今年度は評議員への推薦依頼等は行なわないこととした。

以上

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話：044-911-1014 Fax：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局 (2010年2月1日より住所変更)

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176